

# 稲作生産情報第4号

平成29年6月23日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- 生育はやや遅れている！ きめ細かな水管理で茎数確保に努めよう！  
○ カメムシ被害を防ぐため、地域ぐるみの草刈りをしっかり行おう！

## 1 県生育観測ほの生育状況

6月上旬の低温少照の影響により生育がやや遅れており、6月20日現在の生育は、草丈・茎数・葉数とも平年を下回った。

表1 6月20日現在の生育状況

品 種 名	地 域 (地点数)	草 丈(cm)			株当たり茎数(本)			葉 数(枚)		
		本年	平年	平比	本年	平年	平比	本年	平年	平差
つがるロマン	津軽(7)	35.1	35.7	98	11.6	11.9	97	7.6	7.8	-0.2
	県南(1)	33.8	37.2	91	11.7	14.0	84	7.7	7.8	-0.1
	全県(8)	34.9	35.9	97	11.6	12.2	95	7.6	7.8	-0.2
まっしぐら	津軽(6)	40.9	42.0	97	10.0	11.4	88	7.0	7.4	-0.4
	県南(7)	38.4	40.9	94	9.2	11.1	83	6.9	7.2	-0.3
	全県(13)	39.5	41.4	95	9.6	11.2	86	6.9	7.3	-0.4
ほっかりん	下北(1)	33.5	36.3	92	7.3	10.0	73	5.3	6.5	-1.2

注 平年値は調査地点により異なり、「つがるロマン」が過去2～21か年、「まっしぐら」が過去5～12か年、「ほっかりん」が過去6か年の平均値

## 2 農林総合研究所作況田の生育状況

6月20日現在の生育は、黒石の「つがるロマン」では草丈・茎数・葉数とも平年を下回り、十和田の「まっしぐら」ではいずれもほぼ平年並みとなった。

表2 6月20日現在の生育状況

場 所	品 種 名	草 丈 (cm)				株当たり茎数 (本/株)			
		本年	平年	平差	前年	本年	平年	平差	前年
黒石	つがるロマン	32.5	36.8	-4.3	37.2	15.6	17.8	-2.2	17.4
十和田	まっしぐら	43.0	44.4	-1.4	47.0	15.7	15.4	+0.3	20.2

  

場 所	品 種 名	1 m <sup>2</sup> 当たり茎数 (本/m <sup>2</sup> )				葉 数(枚)			
		本年	平年	平差	前年	本年	平年	平差	前年
黒石	つがるロマン	331	377	-46	369	7.2	7.7	-0.5	7.5
十和田	まっしぐら	380	374	+6	491	7.6	7.6	±0	8.1

注1 黒石は(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所作物部、十和田は同藤坂稲作部の作況試験のデータ

2 移植日は、黒石が5月19日、十和田が5月15日、m<sup>2</sup>当たり栽植株数は、黒石が21.2株、十和田が24.3株

3 平年値は、黒石「つがるロマン」は前10か年、十和田「まっしぐら」は前8か年の平均値

(参考) 6月上旬の気象経過 (気象庁 過去の気象データ・ダウンロードより)

項目	黒石アメダス			十和田アメダス		
	本年	平年	平差・比	本年	平年	平差・比
平均気温 (°C)	15.2	16.4	-1.2	14.7	15.3	-0.6
最高気温 (°C)	18.7	21.5	-2.8	19.2	20.4	-1.2
最低気温 (°C)	11.8	12.1	-0.3	10.4	10.7	-0.3
日照時間(時間・%)	33.1	65.7	50	38.5	60.3	64

## これからの農作業と管理

### 1 水管理

- (1) 温暖な日は3cm程度の浅水にして水温と地温の上昇を図り、気温の低い日は5～6cmのやや深水で保温し、茎数の早期確保に努める。
- (2) 「日中止水、夜間かんがい (夕方又は早朝に入水)」の基本を守り、できるだけ水温の上昇を図る。
- (3) 中干しは、1株当たり20本程度の茎数を確保した水田では、天候の良い日を選んで行い、生育遅れの水田や低温が続く場合には行わない。
- (4) 中干しは、田面に軽くひび割れが入る程度とし、低温に弱くなる幼穂形成期前には必ず終了する。なお、中干し中に低温が続くことが予想される場合は、直ちに中干しを中止して入水する。
- (5) 水はけの悪い水田では、中干しの効果を高めるため、5m程度の間隔で溝切りを行う。

### 2 病虫害防除

#### (1) 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメなど) の発生密度を抑制するため、7月中旬までに畦畔や水田周辺の雑草地などの草刈りを地域ぐるみでしっかり行う。

#### (2) いもち病

ア 補植用の苗を畦畔や水田内に放置すると葉いもちの発生源となるので、速やかに処分する。

イ 葉いもちの初発生は、例年7月上旬頃からみられることが多いので、発生状況に十分注意し、病斑が見つかり次第、防除を徹底する。

ウ 葉いもちが例年発生する水田や抵抗性の弱い品種では、予防剤による防除を基本とする。

エ 予防剤による防除を行った水田でも、葉いもちの発生がみられた場合は、4～5日ごとに成分の異なる茎葉散布剤による追加防除を行い、穂いもちの伝染源となる上位葉での発病を抑えるよう努める。

(3) イネドロオイムシ

食害が多くなると稲の生育が遅れるので、発生が多い水田では、茎葉散布剤や水面施用剤で早めに防除する。

3 雑草防除

(1) ホタルイ、コナギ及びアゼナなどの一年生雑草やオモダカ、クログワイ及びシズイなどの多年生雑草が多く残っている水田では、バサグラン粒剤・液剤及びその混合剤を散布する。

(2) ノビエが多く残っている水田では、ノビエが4葉期までであれば、クリンチャー1キロ粒剤、ヒエクリーン1キロ粒剤、ワンステージ1キロ粒剤、5葉期まではクリンチャーEW、ノビエに加え広葉、多年生雑草も残った水田では、ノビエ4葉期まではヒエクリーンバサグラン粒剤、ノビエ5葉期まではクリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSCが効果的である。

(3) 多年生雑草やノビエ等の発生量が少ない水田では、拾い草をする。

4 復元田の管理

ブロッコローテーションなどで水稻栽培に復元した水田では、土壌窒素の発現量が多くなるため、過繁茂による倒伏や病害虫が発生したり、有機物が多い場合は根腐れを起こすことがあるので、1株当たり20本程度の茎数を確保したら、積極的に中干しを行う。

~~~~ みんなで防ごう！カメムシ被害 ~~~~

斑点米などで品質を落とさないよう、7月中旬までに、地域ぐるみで畦畔や水田周辺の遊休農地などの草刈りを行い、カメムシ被害を防ごう！

青森県農薬危害防止運動実施中！（5月1日～8月31日）

- 1 農作物や使用者の安全のため、農薬は使用基準を守って使用しましょう。
- 2 農薬散布の際は、周辺に農薬を飛散、流出させないようにしましょう。



連絡先 農産園芸課稲作振興グループ  
県庁内線 5075・5074  
直通 017-734-9480

◎ 次回の稲作生産情報の発行予定は7月5日（水）です。